



5 | 14 家庭菜園づくりの季節到来 農業高校で春のガーデニングフェア

新十津川農業高校で春のガーデニングフェアが開催され、731人の来場者でにぎわいました。

毎年恒例のこの行事。高校生が実習で育てた花や野菜の苗が格安で購入できるとあって、9時の開場を前に300人が行列を作りました。会場では、花苗や野菜苗のほか、お米や乳製品、食肉加工品なども販売され、来場者の人気を集めていました。

農生会長の太田実玖さん（3年）は「去年よりもお客さんが多くてうれしいです。今までの2年間と違い、3年生はみんなに頼られる存在なので、ちょっと不安もあります。がんばります」と話していました。

5 | 13 スキー場に恩返しを スキー連盟がボランティア清掃

新十津川スキー連盟の会員ら25人が、冬の間お世話になったそっち岳スキー場に恩返しをしようと、ボランティアでゴミ拾いを行いました。

あいにくの雨の中、会員らが拾い集めたゴミは、タバコの吸殻や空き缶、お菓子の包み紙など、40㍻ゴミ袋7つ分になりました。

教育委員会の担当者は「スキー連盟の活動に感謝しています。利用者の意識高揚もあり、ゴミの量は年々減ってきています」と話していました。





5 | 14 笑顔のすてきな子どもに ゆめクラブ発会式

農村環境改善センターでとっぷ子どもゆめクラブの発会式が行われ、小学1年生から6年生までの計44人が入会しました。悪七廣雄会長は「元気でニコニコしている子どもたちを見ると、町の人みんながうれしくなります。みんなが喜ぶと町も明るく元気になるので、元気な町の子どもになりましょう」と語りかけていました。

会の活動目標は、退職した教員らが指導者となり、子どもたちが遊びや運動、創作、実習など年間13回の活動をしながら、笑顔のすてきな子どもになれるよう支援することです。

初回の活動では、家族へのお手伝い券の作成や改善センター周辺のゴミ拾いなどのボランティア活動を行いました。

4 | 28 - 5 | 7 被災地復興へ向けて

東日本大震災で大きな被害を受けた地域を支援しようと、新十津川そば同好会と空知中央病院のスタッフが、被災地でボランティア活動をしました。

そば同好会は、4月28日から30日まで、渡辺清同好会会長ら9人で岩手県山田町に入り、避難所でそばを打ちゆでて、1,580食を被災者に振舞いました。

また、空知中央病院からは、岩隈勉医師をはじめ薬剤師や看護師ら5人が宮城県気仙沼市に入り、5月1日から7日まで、避難所で生活する人々の診察を行いました。



5 | 24 僕らの手で火事のないまちに

新十津川町少年消防クラブ入団式が新十津川小学校で行われ、高学年の9人が新たに少年消防クラブに加わりました。

少年消防クラブは、昭和58年に設立され、今年で28年目を迎える歴史あるクラブ。今年度は、4年生5人、5年生7人、6年生6人の計16人で、火災のないまちを目指して活動します。

委員長の中村瑛瑠さん（6年）は「これから防火の活動をしていきますが、一生懸命頑張ります」とメンバーに声をかけていました。

